

## 関西広域連合協議会観光・文化分科会の議事概要について

1 日 時 平成26年9月1日(月) 14:00~16:00

2 場 所 関西広域連合本部事務局大会議室

3 出席者 (委員)

秋山会長、佐藤(茂)委員、檜畑委員、信田委員、佐藤(祐)委員、  
多田委員、中島委員、道辻委員、畑委員、須藤委員、山口委員、  
岸田委員、山本委員、安田委員、木田委員、西廣委員、福島委員、  
磯部委員代理、野島委員代理、中川委員代理、

(本部事務局)

中塚局長、古川次長、村上次長、早田企画課長、立石計画課長、  
笠井国出先機関対策PT課長

(広域観光・文化振興局)

平井局長、金谷次長(文化担当)、雨宮文化課長、嶋津文化企画課長、  
大江観光課長付課長補佐(鳥取県)

4 議 事

(1) 関西広域連合の取組等について

①事務局説明

・「広域観光・文化振興局の取組状況について」 【広域観光・文化振興局長】

②意見交換

(2) 地方分権改革に関する提案募集について

①事務局説明

・「地方分権改革に関する提案募集について」

【本部事務局国出先機関対策プロジェクトチーム課長】

②意見交換

### 委員からの主な意見

- 「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを機に、「食」をキーワードにして、酒や和陶器、包丁などの伝統産業の製作現場を見学する観光ツアーなど、「産業観光」の取組みを強化してはどうか。
- インフラ整備や新たな魅力あるコンテンツの開発など、当面連携して取り組むべき具体的な目標やロードマップなどを明確化する必要がある。
- 最近の海外からの観光は、日本文化の根源的な魅力に触れることを求める傾向にある。計画の中にもそのような視点を加えてはどうか。
- フランスの読書推進政策のように、国民の暮らしの文化を底辺から支えていくよ

うなものに目を向けた文化政策を。

- 最近指定を受けた和歌山県の紀南のジオパークも計画に加えてはどうか。
- 各地の街道にスポットを当て歴史や文化を紹介すれば、観光地が線につながり、面への広がりも期待できる。スマートフォンで見られるコンテンツの開発をしてはどうか。
- 特定の案内者や通訳者だけでなく住民全体がおもてなしをできるよう、地域全体の文化度を上げていく施策を望む。
- 広域連合のエリア内のすべての交通機関を自由に乗り降りできるフリーパスの開発を。
- タクシーのカーステレオに対応し、多言語で観光案内ができるコンテンツを作成してはどうか。
- カジノを含めた複合リゾート施設について計画に記載しておくべきではないか。
- 無料W i F i の域内推進、バスと鉄道の連携強化、空港同士の連携を望む。
- 特色のある産業を積極的にP Rすべき。
- デビットカード環境の整備を望む。
- 東京オリンピックまでに、通訳やガイドだけでなく一般の方々が外国語で自分の仕事を説明できるようにするためのキャンペーンを行ってはどうか。
- 和歌山大学は観光学について学部から博士課程までを持つ日本唯一の大学として関西の観光振興に協力していく。
- 関西の名水 100 選、関西の名山 100 選を作ってはどうか。
- 野生の猿の追い払い体験を外国人向けの観光ルートに入れてはどうか。
- 海外へ関西を売り出すには、まずあまり知られていない都市を知らしめることから始めればよい。
- 貸し切りバスは供給不足。女性ドライバーの育成など供給側の努力が必要。
- 関西の歴史や文化が見えるようなキャッチコピーを。
- テーマ性があり物語が楽しめる観光ルートを。
- 日本人の心がある関西に来なければ日本に来たことにならないというP Rをしてはどうか。
- 観光面でもユニバーサルデザインの視点を持った環境づくりを。
- 自分の地域の文化や歴史が語れる人づくりを。
- 古都をめぐる観光ルートを。
- 関西の個々の魅力をうまく結び付けていくのが広域連合の存在意義。
- 文化財の保護という観点から各地域を結びつけられないか。
- 医療通訳の仕組みの構築が必要。
- 観光プロモーションの内容を精査し重点化するべき。
- 人形浄瑠璃だけでなく能、歌舞伎も組み合わせた取り組みを。
- 人物に焦点を当てた観光インバウンドを。
- 通訳案内士の育成、病院での対応、免税店の拡大、行政への問い合わせへの対応等について、それぞれの多言語化を含め、関西全域で取り組んではどうか。
- 観光客への情報提供の際にツイッターやラインなどを活用してはどうか。

- 官民が協力しながら海外メディア等をうまく活用した発信をしていくことが大事。
- 鳥取と和歌山の両ジオパークの一体的な情報発信を。